

# 地理歴史科 学習指導案

1. 日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇時限
2. 科目名 歴史総合
3. 学年・組 第1学年 〇組
4. 単元(題材)名 大項目D グローバル化と私たち (2) 冷戦と世界経済  
世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会  
使用図書は、教科書：『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』(山川出版社)

## 5. 単元(題材)の目標

### (1) 【知識及び技能】

西ヨーロッパの統合や東南アジアの連携のように世界の地域連携が進む中で、日本社会がどのように変化したのかを政治・経済の両面から理解する。

### (2) 【思考力、判断力、表現力等】

1960～1970年代の日本社会を取り巻く政治・経済・国際関係の変化を多面的・多角的に考察し説明できる。

### (3) 【学びに向かう力、人間性等】

世界経済の拡大については世界の地域連携が進んだ要因とその推移を、1960～1970年代の日本社会とそれを取り巻く国際関係の変化については政治や経済を、それぞれ自主的に考察し整理しようとする態度を養う。

## 6. 教材観

世界経済の拡大の中で日本の社会がどのように歩んでいったのかを考え、政治・経済面で今もなお残る課題について知るとともに、さまざまな視点から考察することができる。また、学習過程で、解決の困難さを学び、何が問題で何を解決しなければならないのかを考えることで、生徒がグローバル化する国際社会において平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者をめざすうえで必要な資質・能力を身に付けることができる。

## 7. 生徒観

略

## 8. 指導観

高度経済成長下の日本社会に関する資料の読み取りを通して、生徒自ら知識を獲得できるようにする。その際、どの生徒も他の生徒と協力しながら主体的に授業に参加できるようにするため、「知識構成型ジグソー法」を活用した授業を数回実施し、生徒に課題について主体的に思考することを促すことで、試行錯誤しながら知識のインプット・アウトプットを行う。これにより歴史的事実をさまざまな視点から考察する力と歴史的事実の原因と結果や推移についてまとめ説明する力を身に付けさせたい。

9. 単元（題材）の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解している。	日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などをさまざまな視点から考察して説明している。	現代に通じる歴史的事実に対して、多面的にとらえて考察し、自主的に自身の考えを説明しようとしている。

○：総括的評価（記録に残す評価）  
●：形成的評価（指導に生かす評価）

10. 単元の指導と評価の計画（全5時間）

時	学習内容	評価の観点			主な評価規準 (評価方法)
		a	b	c	
第1時	西ヨーロッパ統合と東南アジアのASEAN結成など、世界中で地域ごとに連携するようになったことを理解する。	●			なぜ地域連携が行われるようになったのかを理解してまとめている。[知]（ワークシート）
第2時	日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約（以下「新安保条約」）の調印によって安保闘争が起きたが、なぜ人々が反対運動を起こしたのかを考察する。		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安保闘争がなぜ起きたのかを新安保条約の内容を踏まえて説明している。[思]（ワークシート）</li> <li>・安保闘争がなぜ起きたのか自身の考えをもとに説明しようとしている。[主]（ワークシート）</li> </ul>
第3時 (本時)	高度経済成長の是非を整理して、高度経済成長に対する自身の考えを説明する。			○	高度経済成長が日本社会にもたらした影響について、多面的にとらえて考察し、自身の考えをまとめようとしている。[主]（ワークシート）
第4時	日本と韓国・中国・東南アジアの国際関係がどのように変化したのかを戦後処理の視点から理解する。	●			日本と韓国・中国・東南アジアとの戦後処理について理解してまとめている。[知]（ワークシート）
第5時	日米関係を踏まえつつ、現在まで続く沖縄基地問題について考えたことを説明する。		●		沖縄基地問題について考えたことを説明している。[思]（ワークシート）

\* 「知識・技能」「思考・判断・表現」の総括的評価は定期考査で行う。

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

高度経済成長が日本社会にもたらした影響について、その是非を説明する。

### (2) 本時の評価規準

高度経済成長が日本社会にもたらした影響について、良い面と悪い面をとらえて考察し、自身の考えをまとめようとしている。

### (3) 本時の準備物

授業プリント・chromebook（スライド掲示用）・班分け用のカード

### (4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<p>◎高度経済成長とは何かを知る。</p> <p>(1) 日本が世界トップレベルの経済大国になったこと</p> <p>(2) 日本の産業構造が変化したこと</p> <p>(3) 家電や自動車が普及して生活が豊かになったこと</p> <p>(4) 1964年に東京オリンピックが行われたこと</p> <p>◎本時の問 (MQ) を確認する。</p>	<p>◎高度経済成長が日本社会にもたらした影響についてスライドを用いて講義し、本時の問 (MQ) につなげられるようにする。</p>	
<p>メインエスチョン <b>M Q</b> 「高度経済成長は日本にとって本当に良いことばかりだったのか」</p>			
展開 40分	<p>◎エキスパート活動 (7分)</p> <p>・A・B・C (後述) の3つの問題のうち、割り当てられた1つの問題を2人一組のペアで協力しながら回答する。(問題とともに対応した資料も配付する)</p> <p>◎ジグソー活動 I (6分×3人=18分)</p> <p>・Aの問題に取り組んだ生徒 Bの問題に取り組んだ生徒 Cの問題に取り組んだ生徒 の3人が班になる。</p>	<p>◎エキスパート活動 (7分)</p> <p>・後で行うジグソー活動 I で、各々が自分の担当する問題を説明しなければいけないことを強調する。また、ペアで協力させ、それぞれの担当する問題に取り組ませる。</p> <p>◎ジグソー活動 I (6分×3人=18分)</p> <p>・配られたカードをもとに指定の席に移動させ、3人班をつくる。4～5人の班には、A・B・C (後述) を担当する者がそれぞれ最低一人はいるようにつくる。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中で、自分が取り組んだ問題について、次の手順で説明する。説明を聞いている生徒は適宜メモをとる。</li> <li>(1) 自身の取り組んだ問題 (A・B・C) とタイトル</li> <li>(2) どのような問いがあるか</li> <li>(3) その問いの答えとその答えにした理由を説明する。その際、問題に添付している資料のどの部分を参照したかを説明する。</li> <li>・(1) (2) (3) をA・B・Cの順番で、時間で区切って行っていく。わからないところは班で話し合って解決する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモは次の活動 (ジグソー活動Ⅱ) で使用することを強調し、ほかの生徒の説明を聞かせるようにする。</li> <li>・もし自分の担当する資料で分らないところがあれば、班員で協力して解決するように指示する。</li> <li>・一回だけの説明で分らない場合は、何回も質問するように指示する。</li> </ul>
<p><b>*A・B・Cの問題の内容</b></p> <p>メインエスチョン M Q につながる サブエスチョン S Q と問い</p> <p><b>A (公害) SQ 「高度経済成長は環境にどのように影響を与えたか」</b></p> <p>問1 「高度経済成長の頃には、どのようなものが多く作られたか」</p> <p>問2 「日本の工業製品の売り上げはどうなっているか」</p> <p>問3 「公害 (環境汚染やその影響による病気) は何が原因といえるか」</p> <p><b>B (農村の過疎化) SQ 「高度経済成長によって農村の様子はどのように変わったか」</b></p> <p>問1 「農村の人口はどのように変化したか」</p> <p>問2 「多くの農村の人々が、農村から出て都市に行ったのはなぜか」</p> <p>問3 「農家の数はどうなったといえるか」</p> <p>問4 「多くの人々が農村から都市に行った結果、農村はどのように変わったか」</p> <p><b>C (都市の過密化) SQ 「高度経済成長によって都市の様子はどのように変わったか」</b></p> <p>問1 「都市の人口はどのように変化したか」</p> <p>問2 「多くの人々が都市をめざしたのはなぜか」</p> <p>問3 「都市での生活のメリットとデメリットはそれぞれ何か」</p>	
<p>◎ジグソー活動Ⅱ (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の問 (MQ) に対する回答を班で協力して作成する。</li> </ul>	<p>◎ジグソー活動Ⅱ (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題A・B・Cの3つの情報をすべて使用して回答を作成するように指示する。それが難しい生徒に対しては1つや2つでもよいので空白にしないように指示する。</li> </ul>

	◎クロストーク（5分） 2班ほどが前の活動（ジグソー活動Ⅱ）で作成した回答を全体に発表する。ほかの班の生徒はそれをメモする。	◎クロストーク（5分） ・ほかの班の回答の良かった部分をメモして吸収するように指示する。	
まとめ 5分	◎もう一度個人で本時の問（MQ）を考えうえで、改めて高度経済成長の両方の側面について振り返る。		○（授業後に一度提出させ、ワークシート返却時の解説後、振り返りを行い再提出させる）

12. 観点別学習状況の評価の判断基準

判断基準 評価規準	「十分満足できる」状況（A）	「おおむね満足できる」状況（B）	「努力を要する」状況（C） と判断された生徒に対する 指導の手立て
【c】	3つの問題の内容をすべて踏まえて高度経済成長の是非を多面的・多角的に考察して、MQに対する考えを具体的に書くことができている。	3つの問題のうち1～2つの内容を踏まえて高度経済成長の是非を多面的・多角的に考察して、MQに対する考えを書くことができている。	後日全体に向けてフィードバックをし、その解説用スライドを掲載して復習させる。

※評価規準の記載については、9. 単元（題材）の評価規準に合わせる。